

教えて！ 今すべき備えと 個人型確定拠出年金

コウセイくんは自分の将来を考え、確定拠出年金に加入して備えることの重要性とそのメリットについて、
社会保険労務士の井戸美枝さんに聞きに行きました。



井戸美枝
井戸美枝事務所 代表
社会保険労務士

いどみえ ● 1990年、井戸社会保険労務士事務所（現・井戸美枝事務所。1993年より現事務所名に変更）を設立。2013年10月より社会保障審議会企業年金部会委員。著書に「ズボラな人のための確定拠出年金入門」（プレジデント社）など。

安心して老後を迎えるため 公的年金に加えて資産をつくる

健康ではない約10年間を
どうお金の不安なく過ごすか

日本の公的年金のポイントとは終身年金であることで、これは大きなメリットです。

日本人の健康寿命と平均寿命の間には、女性で約13年、男性で約9年の差があります。つまり、健康ではない期間が10年前後あるわけです。この期間、お金の不安があると、十分な医療や介護を受けることができません。その点、公的年金が生涯定期的に入ってくることは確定しているのです、これを土台にして、老後にどのような生活をしたのかを考えればよいし、公的年金だけでは足

りない部分は資産を準備しておけばよいということになります。たとえば、趣味や旅行などの娯楽を楽しむには、公的年金だけでは厳しいことをしっかりと認識しておきましょう。

公的年金受給に懸念を招く人も多いようですが、もらえる金額に変動はあっても、もらえないということはありません。というのも日本の公的年金は、納められた保険料をその時々給付に充てる賦課方式を採用しているからです。少子高齢化で納める側の支え手が減ってきてはいますが、納めなくてよい第3号被保険者や高齢者を支え手のほうに回す施策も進められています。

公的・企業・私的年金の
バランスが大事

アメリカでは、年金が3本のイースの脚に例えられます。1本目が公的年金（公助）、2本目が企業年金（共助）、3本目が私的年金（自助）です。この3本の均衡がとれていることがよいという考え方です。

日本の場合、公的年金と企業年金については比較的安定しているといえます。個人の努力で補わなければならないのは、私的年金の部分です。確定拠出年金は、私的年金です。この3本のイースの脚の均衡を図り、自助・公助・共助の組み合わせで老後を過ごすというでしょう。

確定拠出年金で
60歳までしっかり貯める

資産を増やすには、3つの原則があります。「積立て」「投資」と「節税」です。確定拠出年金に加入すると、積立てと節税ができます。掛け金を拠出して、長期に積立て、さらに投資をすることで資産を増やすことができます。

確定拠出年金は、確定給付年金ではありません。自分で運用などをつくった分のお金を年金として受け取るものです。確定拠出年金には、企業型と個人型があります。企業型は、会社が契約した運営管理機関の中から商品を選びます。個人型は、自分で運営管理機関や商品を選び積み立てていくことができます。もう一つのメリットは、運用中は非課税であることです。加えて、所

得控除となるのですぐに節税につながる点でも、とても大きなポイントになります。

口座振替もしくは給与天引きで掛金を納付する点も重要です。給与が余ったら貯めようでは、貯まりません。最初から天引きされた後の給与で暮らそうと考えると生活を設計したほうが、しっかり貯められます。

一方で、年金という性質上、60歳までおろせないという点も留意しておく必要があります。ライフプランを考えたときに、第1号被保険者、第2号被保険者、第3号被保険者と、自分の立場が変化する場合もあります。今回の法改正により、どのようなライフスタイルになっても確定拠出年金を続けられるようになります。

**キャッシュフロー表で
老後の生活設計を考えよう**

来年1月からの加入対象者の拡大もあり、確定拠出年金については、さまざまな情報やプランが出ています。運営管理機関等での「もうすぐ」や「キャンペーン」などの言葉にたづねられて、わからないままに始めてほしくはありません。情報が多く発信されている今だからこそ、まずじっくり勉強をしてみてください。

運営管理機関の変更には手間がか

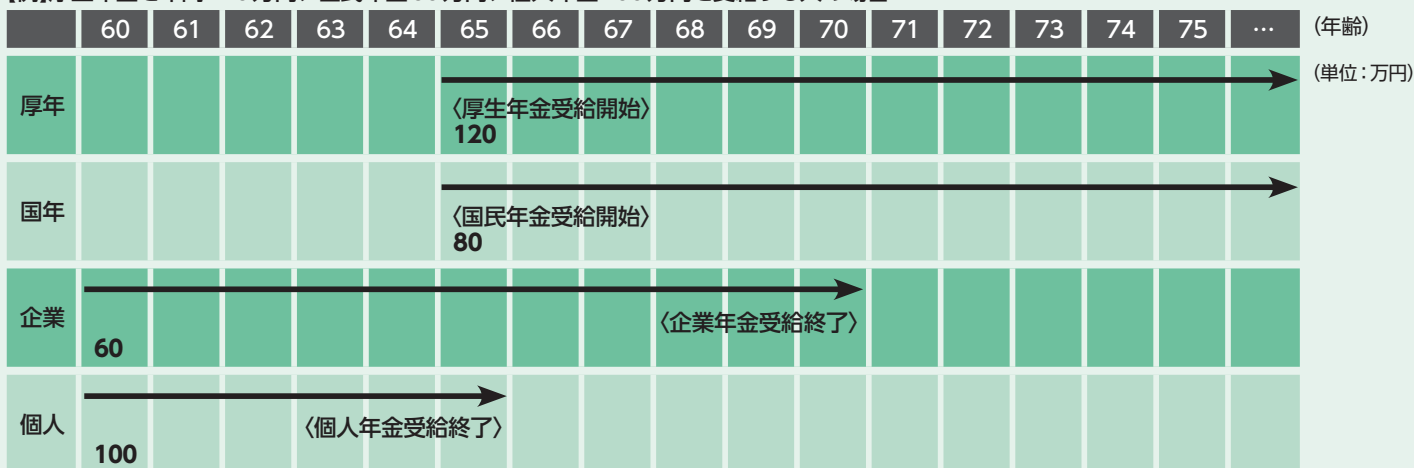
かります。一度選んだ金融機関はずっと続ける気持ちで、よく考えて選びましょう。選択のポイントとしては、口座管理手数料や投資信託にかかる信託報酬など毎月かかる手数料がいくらなのか、電話対応等のフォローがあるのかなどを確認するのがよいと思います。

退職後の生活設計を考える時には、キャッシュフロー表(図表)をつくらせてみることをお勧めします。年齢を軸にして、公的年金や私的年金、企業年金がそれぞれ何歳の時にいくら収入としてあるのか、逆に、家や車のローン返済などいつまで支払うのかを矢印を使い示すものです。そうすることで、老後の月々の必要な生活費や、収入が少ない時期にどのような工夫が求められるのかを簡単に把握できます。キャッシュフロー表はおおまかに書いてみて、老後の生活やお金について考えるきっかけにしてください。

確定拠出年金は受給面でも運用面でもメリットがある制度で、両方でも利点があるものはほかにはありません。公的年金だけではなかなか望みどおりの生活ができないかもしれません。確定拠出年金を公的年金に乗せして、生活資金をきちんとつくりつついく計画を早め立て実行することをお勧めします。

図表 老後のお金の流れをキャッシュフロー表でみる

【例】厚生年金を年間120万円、国民年金80万円、個人年金100万円を受給する人の場合



●生活費、家や車のローン等の支出を計算して記入



●収入(厚生年金+国民年金+企業年金+個人年金)-支出の差額を記入



※ マイナスの時期が明確になる